

はじめに

災害から命を守るためには、まず「自分の身は自分で守る」という心構えが大切で、日頃から様々な事態を想定して備えておく必要があります。

このハザードマップは、各種災害(洪水、土砂災害、高潮、津波、地震)に対する備えや対応方法等の災害時に役立つ情報をまとめた防災情報と、各種災害に関する危険な箇所等をまとめた内容で構成されています。

もしもの時に備え、普段から目につきやすい場所に保管しておきましょう。

なお、浸水が想定される区域や、土砂災害の危険がある区域は、現在も追加や見直しについての調査が行われています。インターネット等を活用して、最新の情報を確認するよう心掛けてください。

日頃の備え

◆災害時の避難心得◆

災害はいつ起こるか分かりません。大事なものは、日頃から準備をすることです。

人には目の前に危険が迫っても「これくらいなら大したことはない」と楽観視してしまう傾向があります。

そのため日頃、災害に対する備えをすることなく、いざ災害の危険に直面すると、何もできず被害にあってしまうことも十分考えられます。

「①自宅(居る場所)が危険な場所か確認する」「②避難について考える」「③避難やそのタイミングを判断するための情報を確認する」「④避難するためのものを準備する」の4つに日頃から取り組むことが、災害が起きた時の適切な行動に繋がるので、日頃からぜひ取り組みましょう。(市ホームページ ホーム > 防災情報 > 災害に備えて にも掲載しています。)



日頃から災害に備えた準備が大切です!

高齢や障害などにより災害時に自力で避難することが困難な方は
市役所地域共生推進課
(082-420-0932)に
ご相談ください。

◆① 自宅(居る場所)が危険な場所か確認する◆

避難が必要なのは危険な場所にいる人です。安全な場所にいる人はその場にとどまるのが一番安全です。

自分がある場所にはどのような危険があるのか、このハザードマップなどを使って確認しましょう。

◆② 避難について考える◆

避難とは、避難所に避難することだけではありません。

例えば、浸水する深さが50センチメートルくらいの場所であれば、自宅の2階に上がるだけでも十分な避難になります。

無理をして避難所へ避難するよりも、そちらの方が安全なこともあります。

住んでいる場所の状況や、自分の体調などから、どのように避難をするのかをあらかじめご自身やご家族と一緒に考えておきましょう。



1. 防災マップ等で自宅が危険な場所でない人
◆ 自宅の中の安全な場所(2階など、できるだけ上の階や山側から遠い部屋など)に移動する
2. 防災マップ等で自宅が危険な場所にある人
◆ 安全な場所にある親戚・知人宅などに移動する
◆ 市が開設する避難所に移動する

◆③ 避難やそのタイミングを判断するための情報を確認する◆

避難を判断するための情報として、市が発表する避難情報があります。
市が発表する避難情報には、警戒レベル3～5が付いており、数字が大きくなるほど危険度が高くなります。
避難情報は、気象情報をはじめとする様々な情報を総合的に判断して、早めに発表しています。
また、避難情報の発表と合わせて、市が開設する避難所をお知らせしますので、必ず確認してください。

警戒レベル5段階表示

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報	気象情報	参考 (R2年まで)
高	5 災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保※1	大雨特別警報	災害発生情報 (災害を確認した時に発令)
~~~~~ 警戒レベル4までに必ず避難! ~~~~~					
危険度	4 災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示(注)	土砂災害警戒情報	・避難指示(緊急) ・避難勧告
低	3 災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※2	高齢者等避難	大雨警報 洪水警報	避難準備・ 高齢者避難開始

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものでない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではありません。  
※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。  
(注) 避難指示は、R3年からは現行の避難勧告のタイミングで発令します。

### ◆④ 避難するためのものを準備する◆

大規模な災害が発生すると、道路・鉄道等が被害を受けることで物流が止まり、物資が不足する事態も予想されます。食料品や生活に必要な物品を最低3日分(できれば1週間分)準備しておきましょう。

日頃から、大規模災害時には、電気・ガス・水道などのライフラインが止まることを想定して、次のような備蓄品を準備しておきましょう。

#### 備蓄品・非常用持出品の一例

##### 飲料水・生活用水

- ☐ 3日分の飲料水の備蓄(1人×3リットル×3日)
- ☐ 生活用水
- ☐ 水筒

##### 食料品等

- ☐ 3日分の食料の備蓄
- ☐ レトルト食品 ☐ 缶詰
- ☐ おやつ ☐ 紙コップ
- ☐ ラップ ☐ 簡易食器
- ☐ 箸 ☐ 缶切りナイフ
- ☐ 粉ミルク

##### 医薬品等

- ☐ 救急用品(消毒液、傷薬、ガーゼ、包帯、ばんそうこう)
- ☐ 常備薬 ☐ カット綿
- ☐ はさみ ☐ ピンセット
- ☐ 使い捨てカイロ ☐ 体温計

##### 燃料の備え

- ☐ 卓上カセットコンロ
- ☐ ボンベ
- ☐ 固形燃料

##### 非常用持出品

- ☐ 非常用持出袋
- ☐ 現金(小銭)
- ☐ ヘルメット ☐ レインコート
- ☐ 健康保険証 ☐ 通帳 ☐ カード ☐ 印鑑
- ☐ 非常食 ☐ 飲料水
- ☐ 備蓄品のうち必要なもの

##### 停電への備え

- ☐ 予備の電池
- ☐ 懐中電灯(大型/小型)

##### 情報

- ☐ 携帯電話・充電器
- ☐ ポータブルラジオ
- ☐ モバイルバッテリー

##### 衣類等・衛生用品

- ☐ 衣類 ☐ タオル
- ☐ ティッシュ ☐ マスク
- ☐ ウェットティッシュ
- ☐ 除菌シート
- ☐ 生理用品 ☐ 軍手
- ☐ 紙おむつ ☐ 簡易トイレ
- ☐ トイレ用ペーパー
- ☐ 歯磨き用品 ☐ ゴミ袋

##### その他

- ☐ ライター
- ☐ 寝袋 ☐ ロースock
- ☐ 筆記具・マーカーペン
- ☐ ガムテープ
- ☐ 新聞紙 ☐ ロープ ☐ 笛

避難所へ避難する時は、安全を優先しながら可能な範囲で食料や毛布等を持参してください。市でも備蓄していますが避難生活が長期化すると不足する可能性があります。非常用持出袋に家族分の保存食や水を入れ、いざという時すぐに持ち出せるようにしておくとう安心です。